

【獣医師の先生向け】帝京科学大学附属動物病院における動物リハビリテーションについて

Ver.6

1. リハビリテーションの取り組み

- 1) 本学附属動物病院で動物リハビリテーションを担当するのは愛玩動物看護師の川村および勤務獣医師の指導のもと、動物リハビリテーション研究室の学部4年生を中心としてチームを組み実施いたします。
- 2) 1症例に対し、学生から主任・副主任を選定し、基本2~5人のチームを組んで実施いたします。
- 3) 手術後のリハビリテーションは、手術を実施された獣医師の先生との連携が重要そのため、主治医である獣医師の先生からのご紹介が必要となります。お手数ですが、別紙リハビリ症例情報シートにてご紹介をお願いします。なお診断や治療が必要になった場合は、まずは主治医の先生とご相談させていただきます。
- 4) 高齢動物のリハビリテーションにつきましても、既往歴や治療歴等をお知らせいただければ幸いです。
- 5) 本学附属動物病院では当該症例の安全な障害からの回復と飼い主様との信頼関係を第一に考えてリハビリテーションに当たります。
- 6) なお、本学附属動物病院で実施しますリハビリテーション内容は、動物リハビリテーション研究室における卒業研究の一環とさせて頂いております。そのため、学生を中心とするチームでリハビリテーションに取り組ませていただいております。初診時に飼い主様へ再度ご説明し、ご同意いただける場合には同意書をいただいております。なお、学生がメインで行う研究のため扱いが非常に難しい動物の場合、安全上の理由からお引き受けできない場合がございます。
- 7) 本学附属動物病院での動物リハビリテーションは、原則火曜～金曜の午前中に実施いたします。

2. 手術後のリハビリテーションの受け入れ体制と治療の進め方

- 1) 手術後の回復や、機能維持などにはリハビリテーションが有効であると判断された場合、飼い主様へ本学附属動物病院をご紹介いただき、本学への紹介も併せてお願いいたします。なお、本学へご紹介いただく際には、別紙リハビリ症例情報シートをご記入の上、メール(k-kawamura@ntu.ac.jp)もしくはFAX(03-6910-3768)にてご連絡をお願いいたします。
- 2) 当方より情報を確認後、飼い主様にお電話をさせていただき、相談の上、来院日時を決めます。
- 3) 初診時は血液検査等の諸検査結果の写し、X線・CT・MRIの写真現物かDVDデータ(ご返却します)、狂犬病ワクチンの済票(または鑑札)・混合ワクチンの証明書をご持参頂きます様飼い主様へ情報の共有をお願いいたします。
- 4) 初診時には診察の後、跛行診断、神経学的検査及び整形外科的検査を実施し、その後飼い主様とリハビリテーションプログラムについてご相談いたします。
- 5) 初診時には、症例動物と担当学生の顔合わせ及びなじみのためお遊びを中心に行います。
- 6) 以降、診療の都度の飼い主様へのインフォームドコンセントは当然の事とし、経過の節目毎に主治医の先生とご相談しながら当該症例の障害の回復に努めます。
- 7) リハビリテーションの実施回数等は、症例によって異なりますが、基本的には週に1回、1回あたり約3時間程度お預かりして実施していきます。回復程度を鑑みながら終了のタイミングは決めていきます。